

2022年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(春期・一般選抜) 問題

専門科目Ⅰ 中国思想中国哲学 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

受験記号番号	
--------	--

成績	
----	--

2022年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(春期・一般選抜) 問題

筆記試験 (中国思想中国哲学 専攻分野)

一、左記の文章は、伝・葛玄撰「老子道德経序」の一部である。現代日本語に翻訳せよ。

解答は、①②③それぞれの問題文の左側に記せ。

※問題文には句読点等を書き入れてもよい。

① 老子體自然而然生乎太無之先起乎無因
經歷天地終始不可稱載終乎無終窮乎無
窮極乎無極故無極也與大道而倫化為天
地而立根布炁於十方抱道德之至淳浩浩
蕩蕩不可名也

②

煥乎其有文章巍巍乎其有
成功淵乎其不可量堂堂乎為神明之宗三
光持以朗照天地稟以得生乾坤運以吐精
高而無民貴而無位履履載無窮闡教八方諸
天普弘大道開闢以前復下為國師代代不
休人莫能知之匠成萬物不言我為玄之德
也故衆聖所共尊道尊德貴夫莫之命而常
自然惟老氏乎

③

周時復託神李母剖左腋而生
生即皓然號曰老子老子之號因玄而出
在天地之先無衰老之期故曰老子世人謂
老子當始於周代老子之號始於無數之劫
甚竊竊冥冥眇邈久遠矣世衰大道不行西
遊天下關令尹喜曰大道將隱乎願爲我著
書於是作道德二篇五千文上下經焉

二、左記の文章は、加賀栄治『中国古典解釈史 魏晉篇』の一節である。これを読み、全文を中国語に訳せ。

もとより、経書のもつ道理は、教理ともいえる規範性をもつものではあったが、そのなかには、おおむね多種多様な解釈を包摂する余地が十分にあった。何よりも、経書の用いる言語表現が、古代言語の特徴として簡潔なものであったから、その解釈には、かなり自由な創造的なものを含みうるものであった。また経典間における主張には、往々にしてくいちがいがあったから、自己立説の根拠をどの経典におくかによって、各自の学説が違ってくるし、経書の体系をいかに組成するかによって、各自の立説にあたっての思想体系を自由に樹立しうる。いうなれば経書の解釈には、はなはだ自由なる裁量をなしうる余地が極めて多かったのである。

三、左記の八項目の中から四つの項目を選び、それぞれについて知るところを記せ
(中国語による解答も可)。

- ①韓非子 ②論衡 ③成玄英 ④朱熹
- ⑤陳献章 ⑥顧炎武 ⑦文史通義 ⑧漢書藝文志

